



神苑の決意

主張

天皇と沖縄／沖縄と天皇―天皇・皇后両陛下が沖縄県を視察された―

「神苑の決意」 主筆 木川智

天皇と沖縄／沖縄と天皇

三月二十七日から二十九日まで、天皇・皇后両陛下が沖縄県を視察された。来年四月に退位される今上天皇にとって、今回が天皇として最後の沖縄県ご視察と見られる。

二十七日、那覇空港に到着された天皇・皇后両陛下は、翁長雄志・沖縄県知事などの出迎えを受けた後、国立沖縄戦没者墓苑・平和祈念堂（糸満市）を訪れ、戦没者へご供花とご拝礼をなされ、出迎えた戦没者遺族へお言葉をおかけられた。その後、いわゆる「豆記者」とご懇談され、翁長知事より在沖米軍基地の実態をはじめとする沖縄県の情勢をご聴取な

された。

翌二十八日は日本最西端の地・与那国島を訪れ、伝統芸能や与那国馬・与那国の蛾「ヨナグニサン」をご覧になった他、与那国の漁業の実態をご聴取なされ、翁長知事・県議会議長・与那国町長および町議会議長らとご昼食会をもたれた。

最終日の二十九日は豊見城市において、沖縄が発祥の地である空手の演舞などをご覧になった後、翁長知事・県議会議長・豊見城市長・市議会議長・警衛関係者らとご昼食会をもたれ、皇居へお帰りになった。

今上天皇は、皇太子時代より沖縄県へ深い思いを寄せられ、沖縄県をご視察された回数はこの度のご視察を加えて一一回を数える。沖縄県民の大歓迎のなかで、ご視察が行われ、初めての与那国島ご視察を含め、全日程が滞りなく終わったことは本当に喜ばしいことだ。もちろん、沖縄県では、一部県民に天皇・皇室へ複雑な感情が存在していることも事実だ。その理由として、二つの「沖縄切り捨て」があげられる。一つは沖縄戦、もう一つは

本号の内容

【主張】天皇と沖縄／沖縄と天皇―天皇・皇后両陛下が沖縄県を視察から考える―（木川智）：1／【解説】映画『悲情城市』から考える二二八事件・現代台湾・対日感情の変容（木川智）：3／【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る 台湾編②（仲村之菊）：7／活動報告：9／記録沖縄戦 軍民・日米それぞれからの視点から：13／お知らせ・編集後記：16

1部 1000円

（別途送料160円）